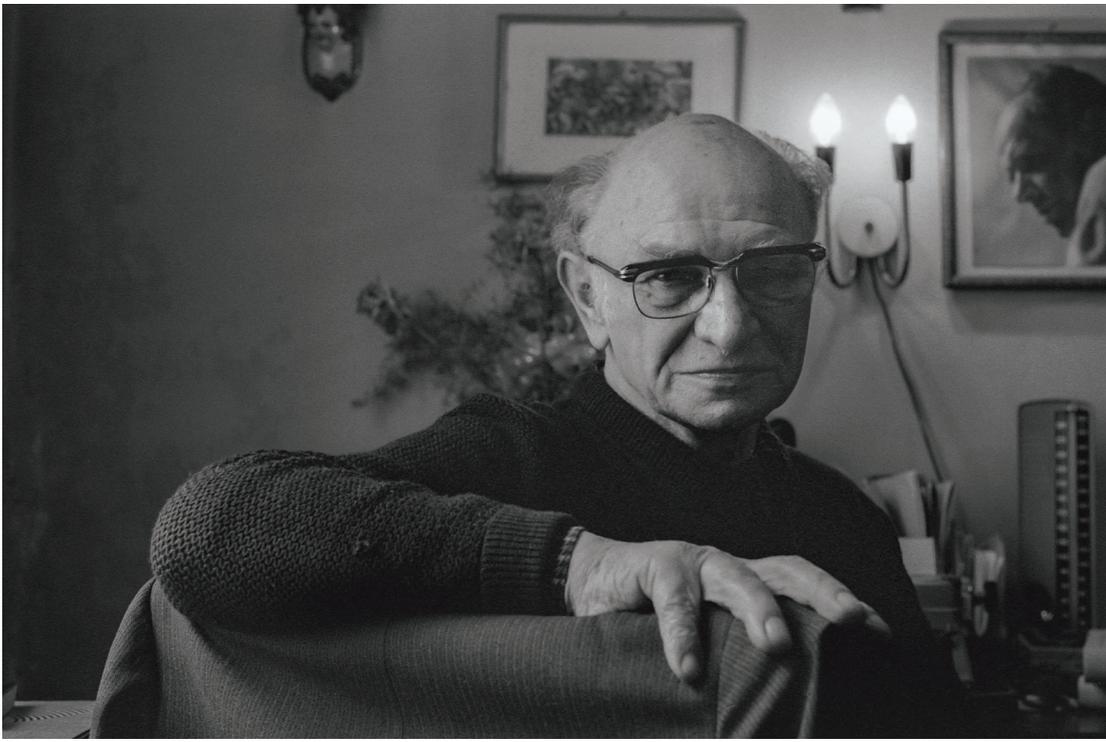


開館35周年

有由有縁



大石芳野「クオジンスキ・スタニスワフ (ナチス)」

土屋禮一 大石芳野 久野和洋 三人展

2026
4.22_{WED}▷6.28_{SUN}



久野和洋「地の風景」



土屋禮一「龍魚(アロワナ)」

岐阜市歴史博物館分館 加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町1丁目46番地(岐阜公園内)

開館時間:午前9時—午後5時(午後4時30分までにご入館ください)

休館日:月曜日【5月4日は開館】4月30日(木)、5月7日(木)

観覧料:高校生以上 310円(団体 250円) 小中学生 150円(団体 90円)

※()内は20人以上の団体料金

※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、難病に関する医療受給者証の交付を受けている方、及びその介護者1名様、岐阜市内在住の70歳以上の方は、証明書などを提示すると無料。ミライID可

※岐阜市内の小中学生の方は無料。

※家庭の日【5月17日、6月21日】に入館する中学生以下の方と、同伴する家族(高校生以上)の方は無料。

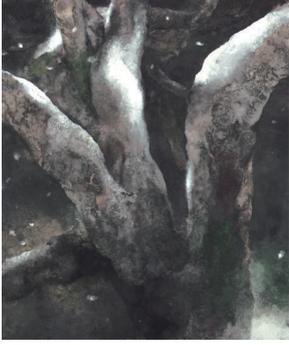
開館35周年 有由有縁

土屋禮一 大石芳野 久野和洋 三人展

このたび加藤栄三・東一記念美術館では「有由有縁」と題し、芸術を通して結ばれた日本画家：土屋禮一、写真家：大石芳野、洋画家：久野和洋の3名の作家を紹介します。人と人との出会いは偶然ではなく、理由があって縁を結んでいます。1970年(昭和45)銀座・東和画廊で個展を開催していた久野和洋は来場した土屋禮一と言葉を交わしたことがきっかけで交際が始まりました。以後、二人は親交を深め、久野和洋は土屋禮一の紹介で加藤東一のアトリエに招かれました。大石芳野と久野和洋の出会いは1976年(昭和51)久野和洋が欧州留学から帰国する機内で偶然隣席になり、美術談義を交わしたことがきっかけでした。今回、芸術という絆で結ばれた3人のアーティストの足跡をそれぞれの作品を通して紹介します。



久野和洋 加藤東一 土屋禮一 大石芳野



雪餘



海の哲人 株式会社明治産蔵



自己の内部に閉じこもり…[カンボジア]



ファリダ(12歳)ボバル(10歳)[アフガニスタン]



地の風景・坂の道



古代の地(IV)TARQUINIA

土屋 禮一(つちや れいいち)

岐阜県養老郡養老町出身。6歳より日本画家であった父：輝雄から9年間毎日絵の訓練を受ける。1964年武蔵野美術大学に入学し川崎小虎、福田豊四郎らに指導を受け、卒業後は日展を舞台に作品を発表。初入選の頃より加藤東一に師事し、1969年第1回改組日展発表作「水たまり」が特選・白寿賞を受賞。以後、1976年に特選を受賞し、1979年日展審査員に選ばれる。1998年 瑞龍寺本堂 障壁画を完成。2009年日本藝術院会員に就任。2011年 加藤栄三・東一記念美術館開館20周年記念「なつかしさの窓から 土屋禮一展」開催。2019年 大嘗祭後の大饗の儀に飾る「主基地方風俗歌屏風」を担当。2023年 大垣市ストピアセンター「土屋禮一展 有由有縁」を開催。現在 日本藝術院会員、日展副理事長、金沢美術工芸大学名誉教授・客員教授、名古屋芸術大学特別客員教授

受章、受賞歴
第37回東海テレビ文化賞(2004年)
2005年第37回日展「椿樹」文部科学大臣賞(2005年)
第63回日本藝術院賞、紫綬褒章(2007年)
旭日中綬章(2025年)

主な著書
土屋禮一 画集

大石 芳野(おおいし よしの)

東京都出身。日本大学芸術学部写真学科卒。東京工芸大学元教授。2004年世界平和とアピール七人委員会委員。(公社)日本写真家協会会員。日本ペンクラブ会員。ドキュメンタリー写真家。世界各地の戦争、内乱後の人々に目を向けたドキュメンタリー作品を制作し、ベトナム戦争、カンボジアの虐殺、沖縄戦、広島・長崎原爆被爆、国内の空襲被災地など取材を続けている。戦禍の地では負傷したり、家族を失ったり、ふるさとを追われたりと苦悩を抱える女性、子どもや高齢者など一人ひとりに寄り添い、非戦をカメラとペンで迫っている。

受章、受賞歴
日本写真家協会年度賞(1982年)、芸術選奨新人賞(1994年)、土門拳賞(2001年)、紫綬褒章(2007年)、日芸賞(2008年)、第8回澄和Futurist賞(2023年)他

主な著書
「戦争は終わっても終わらない」「戦禍の記憶」
「わたしの心のレンズ 現場の記憶を紡ぐ」
「子どもと戦世のなかで」「夜と霧は今」
「あすへの記憶」※最新著書
そのほか著者・写真集多数

久野 和洋(くの かずひろ)

愛知県名古屋出身。子供のころから絵を描くことが好きで、20歳の頃より1年間、春陽会洋画研究所へ人体デッサンの勉強に通う。1958年 東京で開催された「ゴッホ展」を見たことが契機となり画家になることを決意。1961年武蔵野美術大学に入学し洋画と彫刻を学ぶ。卒業後は武蔵野美術大学で助手を勤め、後に非常勤講師となり、1973年より3年間欧州を巡りルネサンス絵画の研究に没頭。帰国後は武蔵野美術大学で教鞭を取りながら立軌展に出品を始める。1982年第34回立軌展「視つめる」「出会う」を招待出品し、同人推挙となる(以後毎年出品)。2022年逝去。立軌会同人、元武蔵野美術大学教授

主な著書
久野和洋 画集

展覧会記念講演会

『あすへの記憶』 受講料:無料 定員:先着100名

講師/大石芳野(写真家)
日時/4月23日(木) 午前10時15分~11時30分
場所/みんなの森 ぎふメディアコスモス みんなのホール
申込/4月8日(水)~4月22日(水)午後5時までに岐阜市歴史博物館ホームページ内の申込フォームから応募。または電話で岐阜市歴史博物館へ。先着順。
◎詳細は、岐阜市歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館 ホームページに掲載。

貴方も友の会会員になってみませんか!
岐阜市歴史博物館
加藤栄三・東一記念美術館
友の会 会員募集
—文化の時代 心に潤いと豊かさを—
(詳細はお問い合わせ下さい)

岐阜市歴史博物館分館 加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町1丁目46番地(岐阜公園内)

交通案内
JR岐阜駅・名鉄岐阜駅前から、長良橋方面行きのバスにご乗車ください。
岐阜公園・岐阜城]で下車(所要時間約18分)
徒歩約5分(岐阜公園内・ロープウェイ山麓駅横)

駐車場
岐阜公園北側の堤外駐車場(有料)をご利用ください。駐車台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。



ホームページ

